

林崎小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①よくわかる授業・考えを深め合う授業づくりの創造
- ②学校と家庭との連携による、生活・学習習慣の確立

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習に意欲的に取り組み、課題にもまじめに取り組める。定期テストの実施や復習などより、漢字や計算などが定着している児童が多い。	○語彙数が増え、正しい言葉で読んだり書いたりできる。 ○数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。	○すべての児童が学習内容をわかりやすくノートにまとめることができる。 ○漢字や計算問題等の定着テストを繰り返し行い、正答率を90%以上にする。	すべての児童が、思考の流れやふりかえりなどをノートにきちんとまとめられるようにノート指導を校内で共有し取り組む。すぐに使えるプリント棚を積極的に活用し、漢字テストを定期的に行ったり、ことわざ辞典・慣用句辞典などを活用したりする。	めあてと振り返りを明確にした板書計画・ノート指導を全校で徹底した。操作活動を多く取り入れた授業を校内研修で紹介し合い、実践につなげた。1～6年の学級文庫に「ことわざ辞典」「慣用句辞典」やことわざカルタを置いて、低学年のうちから興味をもたせ、日頃から親しませるようにした。	全国学力テスト・県ステップアップテストでは、国語科・算数科ともに全国・県平均を上回っている。基礎学力の定着を図るために、漢字・計算テストやフォローアップワークシート等を印刷し、復習にも活用することができた。しかし、漢字テスト・計算テストの達成率にはまだまだ課題が残る。
課題 国語科・算数科ともに上位層と下位層に2極化する傾向があり、個別指導を充実させる必要がある。とくに算数科における基礎・基本の知識については、県・全国平均を下回っている問題もあり、TTを活用した個別指導や復習等により、習熟を図る必要がある。	具体的方策(教員の取組) ①めあてと振り返りを明確にした板書計画とノート指導を全校で共有し、徹底する。 ②量感を育てるための操作活動を多く取り入れる。 ③印刷室に各学年の補充プリント棚を設置し、積極的に活用し、漢字・計算・図形問題等の復習を行い、定着を図る。	取組指標 ①②学年を中心とした授業改善や教師間の振り返りを毎日行う。 ③補充プリント棚の活用率を月2回以上とし、全校で漢字・計算テストを年3回行う。		評価 B 次年度における改善事項 個別指導の充実を図るために担任とTT指導者の連携を密にし、授業改善に取り組む。具体的に継続していく取り組みとして、①漢字や計算などの定着、引き続き小テスト等を繰り返し実施し、さらなる定着を図っていく。②全授業においてめあてと振り返りの徹底を図る。③指導方法を校内で共有しノート指導の充実を図る。④学力向上に向けて定期的に話し合ったり確認し合ったりする機会を設ける。	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 日記やワークシートで自分の考えを書く機会を増やしたことで、書くことに意欲的な児童も増えてきている。	目的に応じて、理由や根拠を明らかにしながら、自分の考えを進んで話したり書いたりできる。	自分の考えを書いたり話したりすることができていると答える児童の割合を80%以上にする。	全校で共通理解した語形を提示し、話し合い活動や書く活動を設定し、伝える力、発信する力を授業で伸ばす。授業研修の充実を図り、ノートなどの指導方法を共有し、考える力や書く力をのばしていけるよう取り組む。	各学級でホワイトボードを一人ずつ持たせて、ペア学習やグループ学習、学級全体での話し合い活動に活用した。校内で考える力を育てるためのノート指導の手立てなどの研修を行い、授業改善にいかした。	「友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う」と答えた児童の割合は82.4%であった。生活のなかでも自分の意見をしっかりとと言える子が育っている。
課題 伝える力や発信する力に課題がある。自力解決のためのグループ(ペア)学習や全体での練り上げの過程を重視した授業の充実を図る必要がある。	具体的方策(教員の取組) ①話し合い活動を充実させ、理由や根拠を明らかにしたり、自分で筋道を立てて考えたりする活動を設ける。 ②児童の学び合いや思考力を高める取り組み等について、教員間で研修する機会を持つ。	取組指標 ①自分の考えを伝えたり、筋道を立てて話し合ったりする機会を、授業の中で週に1回以上。 ②(複数教師による)自分で考える学習の授業研究を週1回以上。		評価 B 次年度における改善事項 ホワイトボードの積極的活用を推進し、効果的な活用方法を話し合い、研修を行う。授業研究の機会を増やして授業のスキルアップを図り、話し合い活動や筋道を立てて考える活動についての指導法を共有していく。指導方法について職員会で共通理解したことは必ず実行するように、全教職員の意識をそろえて実施していけるようにする。	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 宿題や家庭学習にきちんと取り組んでいる児童が多い。読書カードに記録したり、図書室の貸出し数を増やしたりしたことで、図書室を積極的に利用し年間100冊以上本を読んだ児童の数が増加した。	○規則正しい生活習慣や学習習慣が身に付いている。 ○自主的に課題をもって学習に取り組む。 ○進んで読書や家庭学習に取り組む、自ら学ぶ楽しさを実感できている。	①ふでばこの中身や学習用具が整っている児童の割合を90%以上にする。 ②朝の読書時間を週に1回以上確保し、図書室の利用や読み聞かせの会に参加する児童を増やす。	「林崎のびっこカード」のめあてを精選し、全学年で一斉に取り組ませる。また、授業の予習や復習など進んで家庭学習にも取り組めるよう、自主学習の仕方を指導し、意欲を高めて取り組ませるようになる。	「林崎のびっこカード」を活用して年に数回、「筆箱の中身」について指導し、持ち物を確認したり、集会で学習に取り組む姿勢について啓発を行ったり、学校便りで保護者にも伝えたりした。自主学習については、がんばっている児童のノートを掲示して紹介したり、表彰したりして意欲的に進んで取り組めるようにした。	全校や学級で取り組むことにより、自主学習の質も向上し、進んで学習する姿勢が育っている児童も増えてきた。筆箱の中身等は、どの学年にも定着してきている。読書活動の推進においては、図書室サポーターとの連携もあり、図書室を利用する児童も増え、読書活動を授業で活かすこともできた。
課題 あいさつや持ち物などの生活習慣や学習習慣にや課題がある。また、自主学習に取り組める児童は多いものの、学習内容や時間に課題があり、学習の手引きにより継続して指導していく必要がある。学校の授業時間以外の読書時間が少ない児童の割合が多く、家庭読書を推進していく。	具体的方策(教員の取組) ①学習や読書・生活習慣に目標を持たせ、「林崎のびっこ学習(学習の手引き)」により、学習用具も含め、家庭と連携して取り組む。 ②図書室サポーターや市立図書館との連携により、読書活動を推進し、多様な読みの力を高める。	取組指標 ①年間6回以上「林崎のびっこ学習」を配布し、学習習慣の定着を図り、振り返りを行う。 ②毎週金曜日には、図書室で本の貸出しを行う時間を設ける。		評価 B 次年度における改善事項 来年度も引き続き、学校図書室サポーターとの連携を図り、読書量の増加に努める。「林崎のびっこカード」の内容や回数等については、本年度の反省をいかしてさらに検討し、年間計画に基づいて実施していくようにする。「筆箱の中身」についても全校で徹底して取り組めるように啓発を行っていく。学習用具については、チェックしてもしばらくすると、必要のないものを持つ児童もいるため、定期的に確認することができるようにチェックシートを活用し定着を図る。自主学習に取り組む姿勢のさらなる向上に向け、全校で共通理解し、連携して取り組む。	

平成29年度 学力向上ロードマップ

